

令和6年度 学校運営連絡協議会実施報告書

1 組織

- (1) 都立蔵前工科高等学校 学校運営連絡協議会（全日制課程）
- (2) 事務局の構成 主任教諭(総務主任兼務)=事務局長、総務部員1名（記録係） 計2名
- (3) 内部委員の構成
校長、副校長、経営企画室長、教務主任（主幹教諭）、生活指導主任(主幹教諭)、進路指導主任
（主幹教諭） 計6名
- (4) 協議委員の構成
学識経験者(大学教授)、PTA関係2名、近隣中学校長、地域住民代表、警察関係者、同窓会代表
計7名

2 令和6年度学校運営連絡協議会の概要

- (1) 学校運営連絡協議会（第1～3回）の開催日時、出席者、内容、その他
 - 第1回 令和6年7月1日（月）
出席者：内部委員6名、協議委員4名
協議委員委嘱、委員紹介、評価委員の選出
学校長挨拶、学校経営計画、昨年度の学校運営連絡協議会の課題、各分掌から概況報告
本校の現状と課題等説明、意見交換、事務連絡
 - 第2回 令和6年12月17日（火）
出席者：内部委員6名、協議委員5名
学校長挨拶、各分掌から概況報告、授業公開、これまでの教育活動に関する報告
協議委員からの教育活動に対する意見、学校評価アンケートの内容検討と実施計画
事務連絡
 - 第3回 令和7年3月14日（金）
出席者：内部委員6名、協議委員5名
学校評価の分析及び報告、学校運営に関する提言、各分掌から概況報告
協議、次年度に向けた方向性の確認、意見交換、事務連絡
- (2) 評価委員会の開催日時、会場、出席者、内容、その他
 - 第1回 令和6年7月1日（月）
出席者：内部委員3名、協議委員1名
学校評価の基本方針の確認、昨年度の学校評価結果の分析・考察
今年度の学校評価の実施に向けた検討
 - 第2回 令和6年12月17日（火）
出席者：内部委員3名、協議委員3名
今年度の学校評価の観点・項目等に関する内容の検討、実施時期の検討と実施方法
 - 第3回 令和5年3月14日（金）
出席者：内部委員3名、協議委員2名
アンケート集計結果の分析・考察の報告
課題の整理評価報告書の検討

3 学校運営連絡協議会による学校評価（学校評価報告）

- (1) 学校評価の観点
「学校への理解」「学校の意欲」「学校の実践」の観点で実施する。
- (2) アンケート調査の実施時期・対象・規模

・1月 全校生徒	対象：425人	回収：201人	回収率：47%
・1月 教職員	対象：56人	回収：56人	回収率：100%
・1月 保護者全員	対象：426人	回収：314人	回収率：74%
・1月 地域・住民	対象：47人	回収：47人	回収率：100%

※台東区蔵前一丁目町会 蔵前警察署 台東区浅草中学校
台東区危機・災害対策課 浅草消防署浅草橋出張所 等

(3) 主な評価項目

- ・学校運営、学習指導、生活指導、進路指導、特別活動・部活動、健康・安全、施設・設備、働き方改革、オンライン学習などの評価項目を適宜設定した。

(4) 評価結果の概要

- ・すべての項目で、80パーセントを超える肯定的な回答があり、本校の学校生活に満足している。
- ・90パーセントを超える者が、本校に入学して良かったと感じている。
- ・保護者からは、本校の取組（資格取得や就職活動）に対し高い評価を得られている。
- ・各種取組に対し教員は熱心に対応し、補修等もふくめ多くの教科で指導している。
- ・学習や実技指導の取組は、自分の将来に役立つと思う生徒が多い。
- ・生活指導は、一部の生徒から厳しいと評価されているが、保護者からは96パーセントの指示を得ている。引き続き、生徒の基本的な生活習慣が定着するよう指導の継続を図る。
- ・就職が中心の進路指導は評価をいただいているが、進学指導については、物足りなさを感じる保護者がいる。進学先の開拓、受験体制の充実が求められる。
- ・生徒会、各科の生徒を活用した、学校説明会は生徒の活躍が見られるため高い評価を得ている。

(5) 評価結果の分析・考察

- ・本校の施設・設備は古く、特にトイレに関する意見が多く上がっている。洋式トイレ等の改修を含め施設の充実を図ることによって、募集倍率にもつながると考える。
- ・一人1台端末の活用は進んできている。教員もICTを利用した授業を工夫している。まだまだ課題はあるが、提出物や連絡方法など活用を広げていきたい。
- ・観点別評価について、評価と指導の一元化をさらに進めていく必要がある。
- ・生活指導は、生活習慣や規範意識について、将来を見据えた指導を行う。
- ・広報活動は昨年以上に行っているが、募集倍率につながっていない。受験生のニーズに答えられる内容を検討し、1倍を超える倍率の確保を目指す。

4 学校運営連絡協議会の成果と課題

(1) 学校運営連絡協議会を実施して得られた成果

- ・生徒・保護者・教員ともに、肯定的な回答が多く、本校の教育活動について高い理解を得られている。
- ・生徒は本校教員の授業について満足しているが、一部の教科・科目によっては授業改善が必要であると認識できた。
- ・インターンシップは生徒の勤労観・職業観を醸成するのに役立っている。また、体験前と体験後では意識もかわり、将来の進路に対し考える一助となっている。

(2) 学校運営連絡協議会を実施して明らかとなった課題

- ・近隣の住民と関わる機会が少ない事が分かった。地域ボランティアなど、機会を増やし学校の活動を理解していただく必要を感じている。
- ・防災訓練やボランティア活動など、蔵前警察署や浅草消防署浅草橋、台東区危機・災害対策課と連携し、内容の充実を図っていく。
- ・教育活動で見えない部分があるため、学校評価アンケートに「わからない」という項目を設け集計結果の精度を上げる必要がある。

5 学校運営連絡協議会及び学校評価を活用した教育活動の改善事項

(1) 学校運営

- ・生徒・保護者に対して、学校の連絡が行えるよう Classi や Teams など積極的に活用し発信していく。

(2) 受験生や保護者に対し、ホームページを利用し、学校の取組など広報活動を行っていくとともに、X やインスタグラムなどの SNS を積極的に活用し広報に努める。

(2) 学習指導

- ・評価に関し精度を上げていく必要があり、観点別評価を全教員が適切に理解し、評価と指導の一元化の推進を目指す。

(3) 特別活動

- ・体育祭、文化祭について内容の充実が図れた。体育祭では、熱中症対策のため5月に実施時期を変更し、改善を図った。

(4) 生活指導

- ・生活指導については、校則等の見直しを進め、生徒手帳にканしてもペーパーレス化を図った。

- ・全科が統一した指導となるよう生活指導部が中心となり、指導を行った。
- (5) 進路指導
- ・一人一人の進路活動に対し、就職指導だけでなく大学進学等の指導についても適切に行える体制づくりを進めた。次年度以降は、アドバイザー等を活用し進学指導の充実を図る。
- (6) 健康・安全
- ・熱中症予防や感染症対策、課題を抱えている生徒に対しての指導を充実させる。

6 「学校が良くなった」と考える協議委員の割合

(1) 協議委員人数 7人

(2) 学校が良くなったと答えた協議委員の人数

そう思う	多少そう思う	どちらとも言えない	あまりそう思わない	そう思わない	分からない	無回答
3	3					1

7 職員会議及び企画調整会議への協議委員の参加実績及び成果

【実績】 職員会議 0回 企画調整会議 0回

【成果】 特になし

8 その他

- ・学校評価アンケート回収率を高めるため工夫する必要がある。
- ・オンラインによる回収方法や実施時期を検討し回収率をあげる。
- ・評価精度の向上を進めるため、保護者会や行事など、保護者が来校する機会を増やす。また、ホームページを更新し最新の状況を開示するとともに、SNSを積極的に活用し情報発信をしていく。